

1 組織

- (1) 東京都立日野台高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課(室)長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導主任)、保健部主任、総務部主任、主幹教諭(1学年担当)、主幹教諭(2学年担当)、主幹教諭(3学年担当) 11名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)
教育行政系(市教委統括指導主事)、学識経験者(大学教授)、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、中学生対象学習指導塾代表、地域代表2名、PTA会長、PTA前会長、同窓会長 11名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年5月29日(木) 内部委員11名、協議委員5名
校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介、役員選出
学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和7年10月30日(木) 内部委員11名、協議委員9名
校長挨拶、これまでの教育活動に関する報告、意見交換、
学校評価の内容検討、協議、事務連絡
 - 第3回 令和7年2月5日(木) 内部委員11名、協議委員8名
校長挨拶、これまでの教育活動に関する報告
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年10月30日(木) 内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討
 - 第2回 令和7年2月5日(木) 内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象：942人	回収：827人	回収率：87.8%
・12月	保護者全員	対象：942人	回収：758人	回収率：80.5%
・12月	地域・住民	対象：29人	回収：19人	回収率：65.5%
・12月	教職員	対象：55人	回収：53人	回収率：96.4%
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
(「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目についても設定すること。)
- (4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

【全体】

 - ・昨年同様、生徒・保護者・教員は、生徒が学校生活全体に充実感や満足感を得ていると考えている。
 - ・生徒は、「学習」と「部活動・学校行事」の両立を目指している。
 - ・日野台高校に入学して(させて)良かったと考えている生徒・保護者の方が非常に多い。
- (5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)

【授業、読書活動に関して】

- ・昨年同様、教員は、授業改善に努め、生徒は、授業に関して全般的に満足している。ただし、その状況は保護者には明確には伝わっていない。
 - ・この原因の一つとして、家庭学習時間の少なさがあると考えられる。
 - ・読書活動は、総合的な探究の時間などを通して、徐々に高まってきているが、まだ足りてはいない認識を三者とも持っている。
- 以上より、学校での学習状況が、家庭で見えていないことが考えられる。

【生活指導全般について】

- ・生徒にも、教員にも「日野台スタンダード」は浸透していない。
 - ・生活習慣の指導や、交通ルールの指導に対して、生徒や保護者は肯定的だが、教員の肯定的意見が多くはない。
- 三者の認識の相違が最も大きかったのが、生活指導についてである。生徒・保護者は現状を是としているが、教員は生活習慣や交通ルールについてももう少し積極的な指導をしたいと考えていると思われる。

【進路指導について】

- ・昨年度よりも、数値としてはあがっており、生徒及び保護者は、本校の進路指導に対して、非常に満足している。

【その他】

- ・いじめに対する指導、保健室やスクールカウンセラーとの相談体制については、教員が肯定的だが、保護者の肯定的意見が多くはない。
- 生徒・保護者はさらなる相談体制の充実を求めており、学校側としても、負荷を考えながらも対応策を講じる必要がある。

【地域の方より】

- ・本校が、地域に貢献しているという回答は、昨年度 75%から今年度 58%に下落しており、地域に対するアピールが少ない。
- ・本校生徒が、交通ルールを守っているか、という回答は、昨年度 50%から 79%へと上昇している。今後は、地域貢献活動について考えていくことも必要だと思われる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・会を通して、昨年度の倍率の低下を課題として認識し、中学生の志望動向などを共有することができた。
- ・生徒への授業についてのアンケート結果から、学校・生徒・保護者それぞれとの認識・情報の共有が必要であると認識できた。
- ・地域での問題（日野自動車の工場撤退による、物流センター化→交通の問題）を共有することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、生徒との交流、生徒による地域貢献を望んでいることが分かった。
- ・学校の教育目標を、生徒に正しく認識させる必要がある（生徒が都合良く読み替えている）。
- ・学校の魅力化を一層はかっていく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、「日野台スタンダード」をまず生徒にも保護者にも認識してもらう。

(2) 学習指導

- ・家庭学習時間を、まずは「学年＋1時間」ということを担任だけでなく、進路指導部などの分掌からも生徒に浸透させる。
- ・ビブリオバトルや図書館オリエンテーションなどを活用して、生徒の読書活動を活性化させる。

(3) 特別活動

- ・部活動が、積極的に地域貢献活動を行うよう、生活指導部を中心に働きかける。

(4) 生活指導

- ・上記のように、まずは「日野台スタンダード」の内容を生徒に浸透させる。

(5) 進路指導

- ・今の進路指導のレベルを維持しつつも、教員の振り返り（入試結果報告会）等を実施し、その反省を授業等へ反映させる。

(6) 健康・安全

- ・SC を活用した相談体制の充実や、令和7年度2学期からはじめた教育相談会議を学期1回定例化していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	4	1	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】

- ・特になし。

8 その他

- ・アンケート回収率は向上した。多くの意見を回収できたので、今後の学校経営に反映させていきたい。
- ・質問数が多いとの意見もあった。質問数を減少させても評価精度を高めるような質問を評価委員会で検討する。